

③ 「日本発」の近代哲学

(1) [1] 幾多郎

1 [2] 経験 ← 自らの禅体験

… 主客未分 で具体的・直接的な経験 ex. 音楽に没頭

認識する自己（主観）と、認識される対象（客観）が区分されていない状態

a 知・情・意が未分

b 個人としての自我でなく、「それ以前の自分」

c 真の実在（いのち）と一体

比：西洋の近代哲学は、二項対立的な分析が中心

精神と物質、自我と外界 etc.

2 絶対矛盾の自己同一

… 決して相容れない対照的なもの同士が、

本質的にはお互いを自己とし合うように一つであること

ex. 過去 — 現在 — 未来

… ともに歴史を構成し、責任を果たす

自己 — 人格 — 他者

… ともに社会を構成し、善をなす

3 『[3]の研究』

… 西洋の知性と東洋の信仰心を統合

理性的自我

自我意識の根底の場

= 鋭さ

= 深さ ← 芸術的直感や宗教的心情で「感得」される

cf. 「深さとしての東洋の信仰心は、鋭さとしての西洋の知性の土台」

∴ 両者の対立を否定

(2) [4] 哲郎

1 『人間の学としての倫理学』… 人間とは [5]的存在 である

「にんげん」と「じんかん」で区別

人間を「にんげん」（個人的存在）としてとらえる西洋思想に対して、「じんかん」ととらえた人間観

→ 西洋の個人主義（＝「にんげん」 ∴ メンバー一人ひとりを重視）と

東洋の共同体的心情（＝「じんかん」 ∴ チーム全体を重視）を統合

cf. 両者の対立を、弁証法的に止揚する ex. One for all, All for one.

2 『[6]』

a [7]型（インド etc.）→ 受容的・忍従的

b [8]型（アラビア etc.）→ 戦闘的・服従的

ex. 一神教

c [9]型（欧米）→ 人工的・合理的

ex. 人間が自然や神をコントロールできる

MEMO etc.